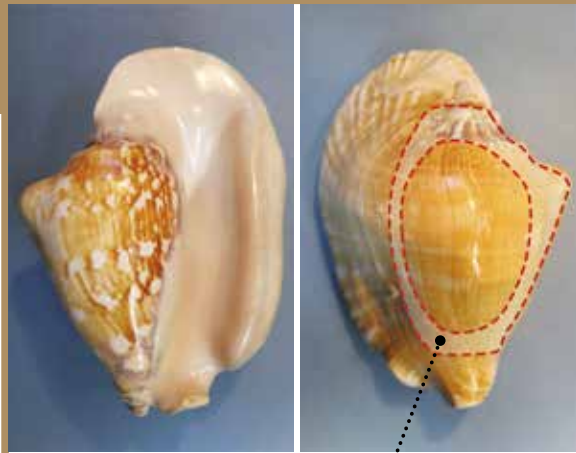


I'Museum 通信

Vol. 14

新たに市指定文化財に指定

— 北旭台遺跡出土有鉤銅釧 —



貝輪を作る際に切る位置

現生のゴホウラ



北旭台遺跡から出土した有鉤銅釧

南洋の貝がルーツの腕輪

有鉤銅釧は、名前の通り、鉤かぎのようなくらいつ張りを持つ銅製の腕輪です。特徴的な形は、ゴホウラという貝で作られた貝輪かいわ（貝の腕輪）がモチーフと考えられています。ゴホウラは沖縄や奄美諸島など南の暖かい海に生息する大型の巻き貝で、弥生時代にはこの貝輪が装飾品として使われていました。ゴホウラを縦に切断して作る貝輪の形が、有鉤銅釧とよく似ていることが分かります。

弥生時代の後期には、南海産の貝輪は徐々に減少し、九州北部で成立した有鉤銅釧は、貝輪に代わるように各地に広がっていきます。産出地が限られるため入手が難しい貝輪は、やがて金属の鑄造によって大量保有を可能とした銅製の腕輪へと移っていったと考えられます。素材を変えながらも、同じ形にこだわった当時の人々の感性がうかがえます。

重要な出土事例

この有鉤銅釧は、養老川中流域の磯ヶ谷地区にある北旭台遺跡で、平成元年の発掘調査で発見されました。古墳時代前期の竪穴住居跡から出土した本例は、現在までに全国で見つかっている使用年代が推定可能な有鉤銅釧の中では、最も新しい時期のものと考えられており、出土地域としては最東端で出土した事例です。全国でも出土数の少ない希少な遺物であり、弥生時代から古墳時代の青銅器文化を考える上で重要な資料であるため、市原市指定文化財（考古資料）に指定されました。

実物は1月20日(土)から博物館常設展で展示します。

特別展終了に伴う常設展示復旧のため、1月19日(金)まで休館しています。

古文書講座入門編2(全3回)

日時 1月27日(土)、2月3日(土)、10日(土)午前10時～正午

内容 古文書解読の基礎知識を身に付ける

人数 抽選25人(昨年8・9月開催の古文書講座入門編を受講していない人優先)

申込方法 1月17日(水)までに専用フォーム(右のQRコード)が電話で申し込む。

